

1988年3月5日(土)

奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

調査地 奈良市二条大路南一丁目

調査期間 1988年1月～ 面積 1570㎡

1 はじめに

平城京左京三条二坊一・二・七・八坪にまたがる約40000㎡の場所に、そごうデパートが建設されることになり、このうち30000㎡を、2年半の予定で、一昨年の秋以来、継続的に発掘調査を進めている。きょう報告する調査地は、デパート建物予定地の西北辺にあたる。

これまでの調査面積は、あわせて13700㎡あり(第2図一A・B・C区)、すでに2回の現地説明会をひらいている。調査により、この場所は、奈良時代のはじめから4町(坪)という広大な敷地を占める宅地であったことが明らかにされている。また調査区の北東隅の、井戸跡と思われる深い穴の中から、奈良時代前半期に政府の中心となって権勢をふるい、悲劇的な死をとげた長屋王に関連する木簡が見つかるなど、平城京の実態を理解する上で重要な遺構や遺物が発掘されつつある。

今次の調査では、奈良時代前半の、4町の宅地の時期の正殿と推定される大規模な掘立柱建物や、その時期の建物群を区画する施設のあり方に関する興味深い成果を得、くわえて、奈良時代後半に再び4町を占める宅地の形態を解明するための手がかりなども得ることができた。

2 今回みつかった遺構について

今日あらたに報告するのは、D区でみつかった遺構群である。

D1区のはほぼ中央に、正面(桁行)7間、側面(梁行)5間で、南と北に庇(ひし)のつく東西方向の建物1がある。奈良時代の尺度で、正面78尺(約23.1m)、側面50尺(14.8m)という大規模なもので、建坪にして341.9㎡、約103坪もあり、これまでに調査された平城京内の宅地の、どの建物よりも大きい。建物の内部には床柱をたてた柱穴が残っているの、床をはった建物であったことがわかる。

この建物1の南側には、東に庇のつく南北棟(建物34)2棟が、ほぼ同じ場所で建てかえられ、その西には、かなり大きな東西棟(建物35)が、やはり同じ場所で建てかえられている。

D2区の中央北寄りには、東西方向に長くのびる堀19がある。これはC区につながり、全部で63m続く。西の端で直角にまがって、北にのびている。D2区の西端には南北方向の堀20があり、D1区の北寄りでみつかった東西堀21とつながるものとみられる。

D1区北寄りには東西方向の道路跡37が、D2区西寄りには南北方向の道路跡38があるが、いずれも条坊を坪に分かつ坪境の小路である。

3 建物配置(宅地利用)の移り変わり

これまでの調査でみつかった遺構は、建物跡が112、堀の跡が31、井戸の跡が24にのぼる。ほとんどすべてが奈良時代のものであり、遺構の重なり関係や配置状況などから、8つの時期に区分できる。

A 期

奈良時代前半にあたる。掘立柱で敷地の中を東西、南北に区画し、その堀が七・八坪、一・二坪の坪境小路をこえてのびる。4町(坪)が一つの敷地となり、広大な面積をしめる時期である。この時期は、遺構の配置関係によって、さらにA1～A4の小期に区分できる。

A1期 南北堀4と東西堀5で区画した中に、中心となる建物である正殿(建物1)を建て、その東に、南北38mもの長大な建物2が、脇殿として配置される。

A2期 正殿、脇殿は変わらないが、大きな区画堀が取り壊されて、正殿の東南方に、約36m四方の正方形の区画がつくられる。

A3期 建物群が最も整然と配置される時期。正殿1はそのままだが、脇殿2を壊して、かわりに南北棟建物13をつくる。その東方に、正面8間、側面4間の大きな建物11と、その北に接して東西棟12がつくられる。1・13などの建物群と、11～15などの建物群の間は、南北堀22で仕切られる。また建物群全体は、東西堀16や19、南北堀18などでかこまれて、南北が100m、東西が少なくとも120m以上の大きな区画がつくられる。

A4期 おもな建物はA3期のままだが、建物12を壊して、堀23～26をつくり、大きな区画をさらに小さな区画に分けて、建物を1～2棟ずつ囲みこむ。

B 期

奈良時代中期にあたる。二坪と七坪、一坪と八坪、それに一坪と二坪、七坪と八坪の間に小路をつくって、4町であった敷地を1町ごとに区画する。

C 期

奈良時代後半にあたる。小路の側溝が埋め立てられ、再び4町が一つの敷地となる。敷地の中心はD・E区と思われ、今回みつかった建物34や35がこの時期のものと考えられる。

D 期

奈良時代末～平安時代はじめにあたる。坪境の小路がふたたびつくられ、1町ずつの敷地となる。D1、D2の2小期に分かれるが、いずれも小規模な建物が宅地内に散在している様子をみせる。

D期以後の遺構、遺物はほとんどなく、この遺跡は、平城京の廃都後まもなく、人々の居住地ではなくなってしまったようだ。

4 井戸跡の調査

B区の遺構については、すでに昨年の8月末に報告したが、井戸跡の掘下げ調査は、今年の1月に行なった。

B区内に井戸跡は8ヶ所があり、そのうち井戸Vは井戸枠が完全に抜き取られていた。井戸Tも同様に井戸枠の大半が廃絶に際して抜き取られていたが、いちばん底の一段だけは、もとの位置に残されていた。この井戸は一边が120cm近くある。平城京内の普通の井戸枠が、一边0.7～0.8m前後であるのに比べると、大型の部類にはいる。また井戸枠の組み上げかたも、最も本格的である。この井戸の枠を抜き取った穴を埋めた土の中から、猿などを墨で描いた土器がみつかった。

井戸T以外の井戸は、一边あるいは直径が70cmほどの小規模なものであるが、曲物容器を利用した井戸枠の多いが目立つ。それぞれの井戸の中を埋めた泥土の中には、多くの土器が捨てられていた。井戸Uには奈良三彩の小壺も埋まっていた。

なお井戸Pでは、井戸枠を組み立てて据えるために掘った穴の中に、マツリやマジナイに使われた、薄い木の板でつくった齋串(かし)や、直径3cmほどの小型鏡が埋められていた。

C区の東はし近くにある四角形の深い穴Wは、井戸枠がすべて抜き取られた跡と考えられるが、この中に捨てられた土砂やゴミの中から229点におよぶ木簡がみつかった。その中には、「長屋皇宮」と書かれたものもあり、この遺跡の居住者を考える上で重要な資料がえられた。

・井戸T出土の墨画土器について

土師器皿の内外面に絵や文字がかかれていた。

この土器のつくられた年代は725年頃である。

土器の外面には5匹の猿の顔が描かれ、そのうち1匹は全身が表現されている。

土器の内面には、枝と葉をあしらった樹木がえがかれ、イヌの顔かとも考えられるものがある。

この墨画は土器のつくられた年代を大きく下らない頃、つまり長屋王が存命していた時期に、絵画の技術をもつ人によって出土地付近で描かれた可能性が高い。猿の墨画からは、猿を段階的に描いたあとがうかがえることから、正式な絵をかくための練習であつたと推定することができる。

井戸跡W出土の木簡について

木簡は229点あり、米、飯など食料関係の文書、荷札、付け札が中心である。1から3は長屋王の宮で消費される白米1石を入れた俵(はら)に付けられていた札で、裏面に書かれた羽咋直嶋(はにけのちくしま)は、この白米をついた人夫である。

4と5は帳内、少子への飯の支給に関するものである。4に見える帳内、少子は、親王、内親王に支給されたトネリで、雑務に使われた下級の役人のことである。

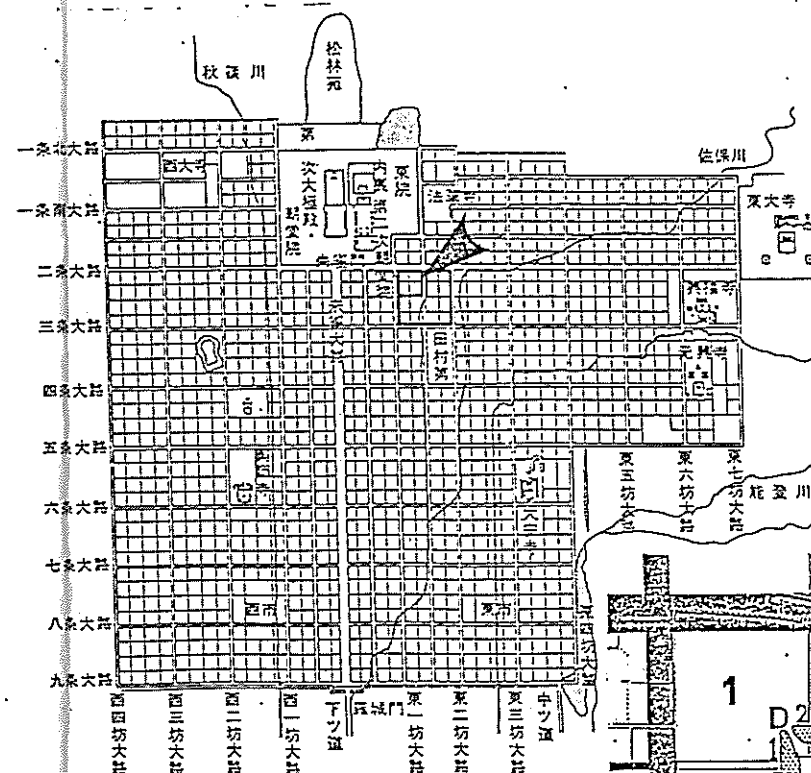
6は犬6頭分の餌として飯を請求した珍しい木簡である。

7は伊豆国から税として送られてきたカツオ(堅魚)につけられていた荷札。

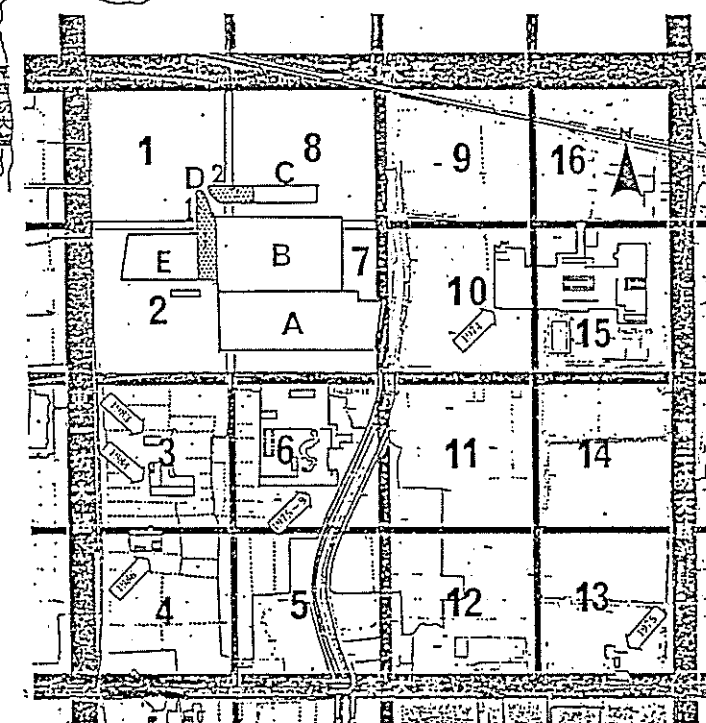
国郡の名前がわかるものが7点あり、そのうち8・9など、近江国のものが5点をしめているのが特徴である。

用途不明ながら、興味ある語句を書いた木簡も出土した。10～12点で、たわむれ書きのたぐいであろうか。

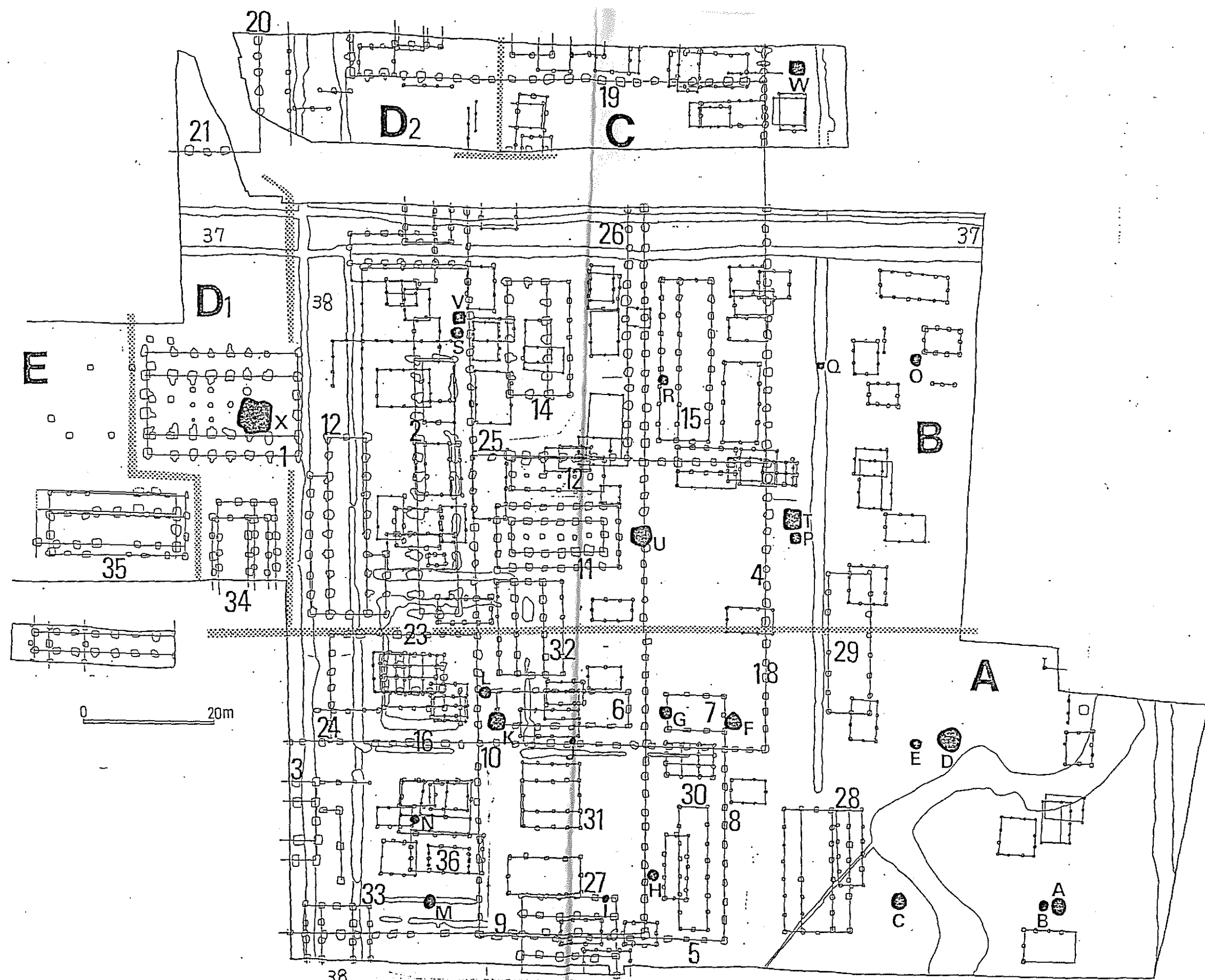
なお、現在のところ、木簡にみられる年紀は養老元年(717)に限られる。



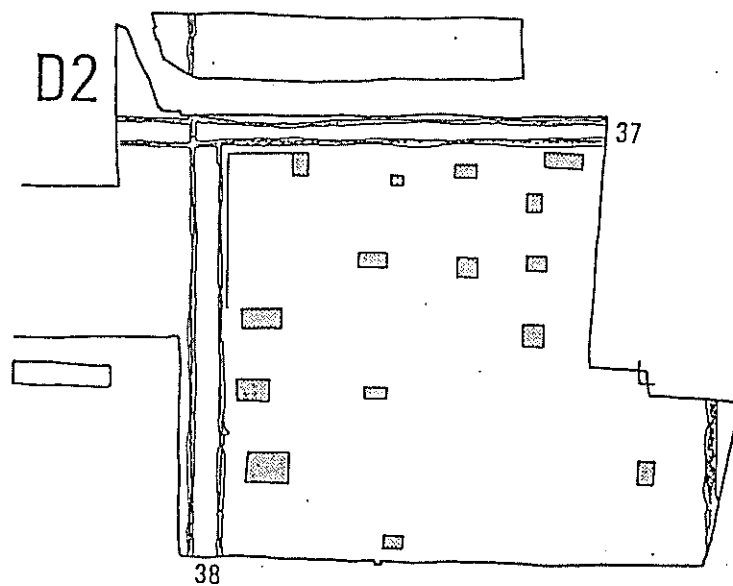
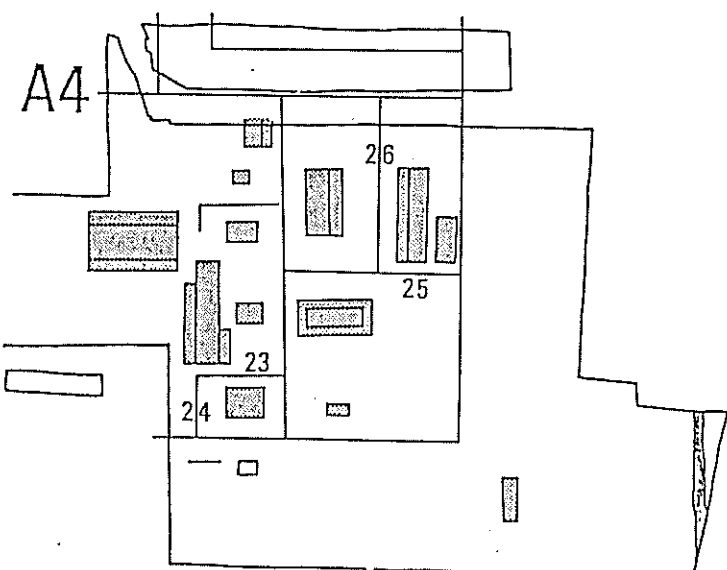
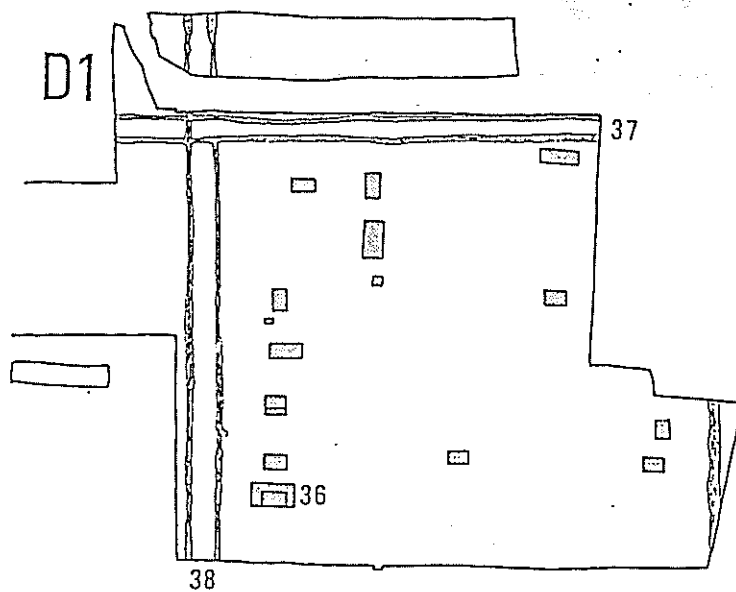
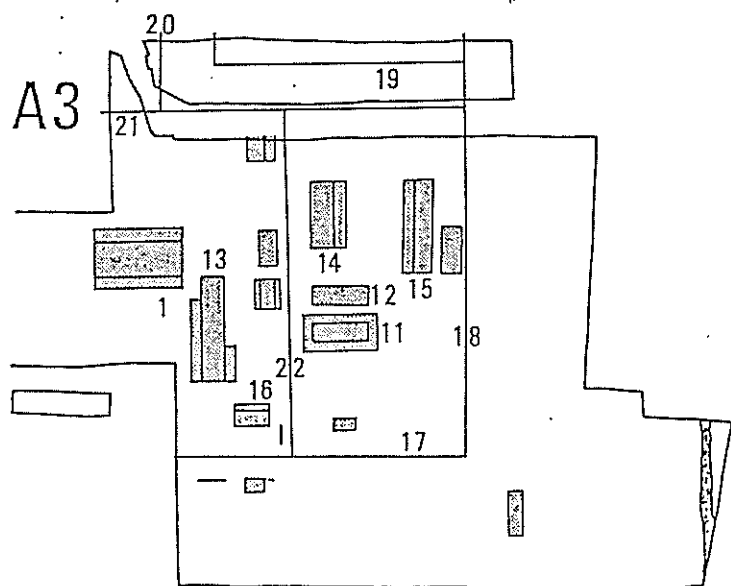
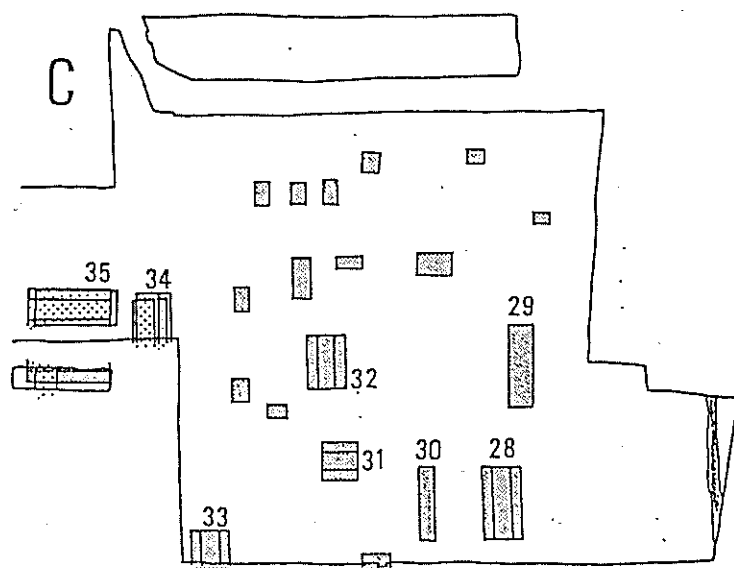
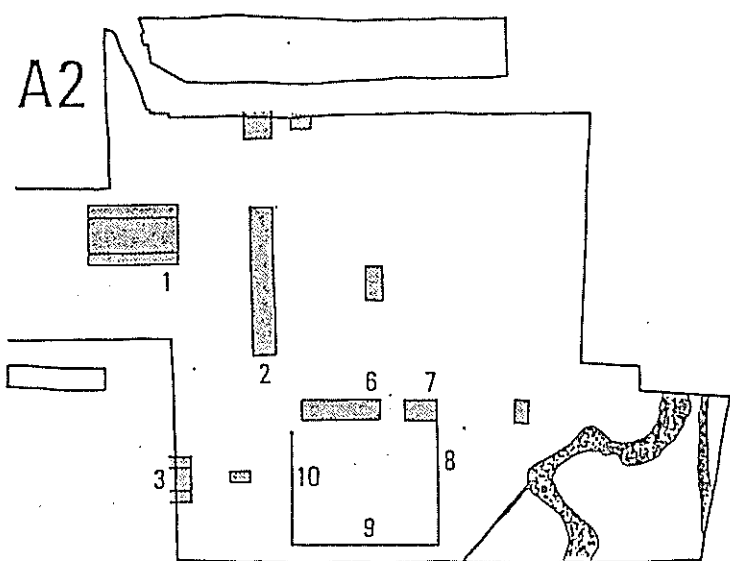
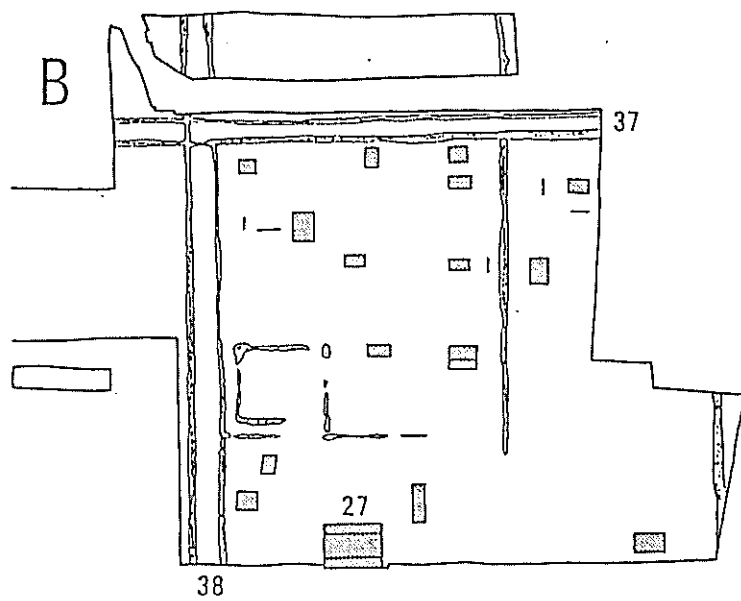
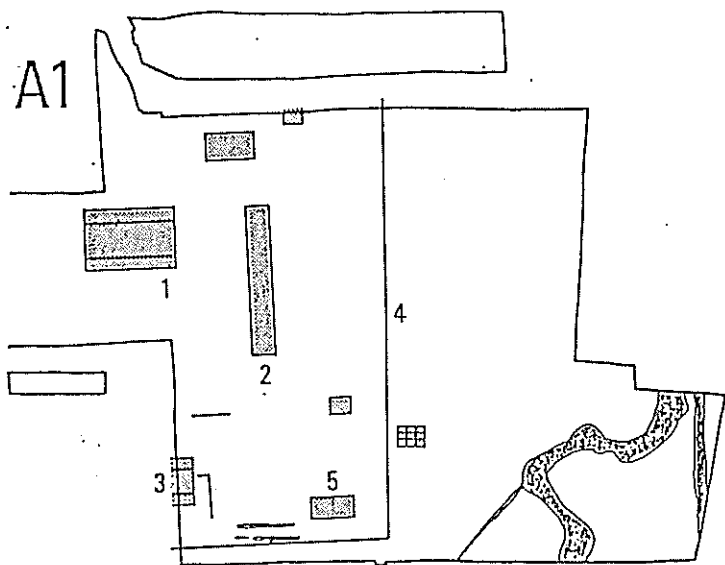
第1図 平城京と調査位置



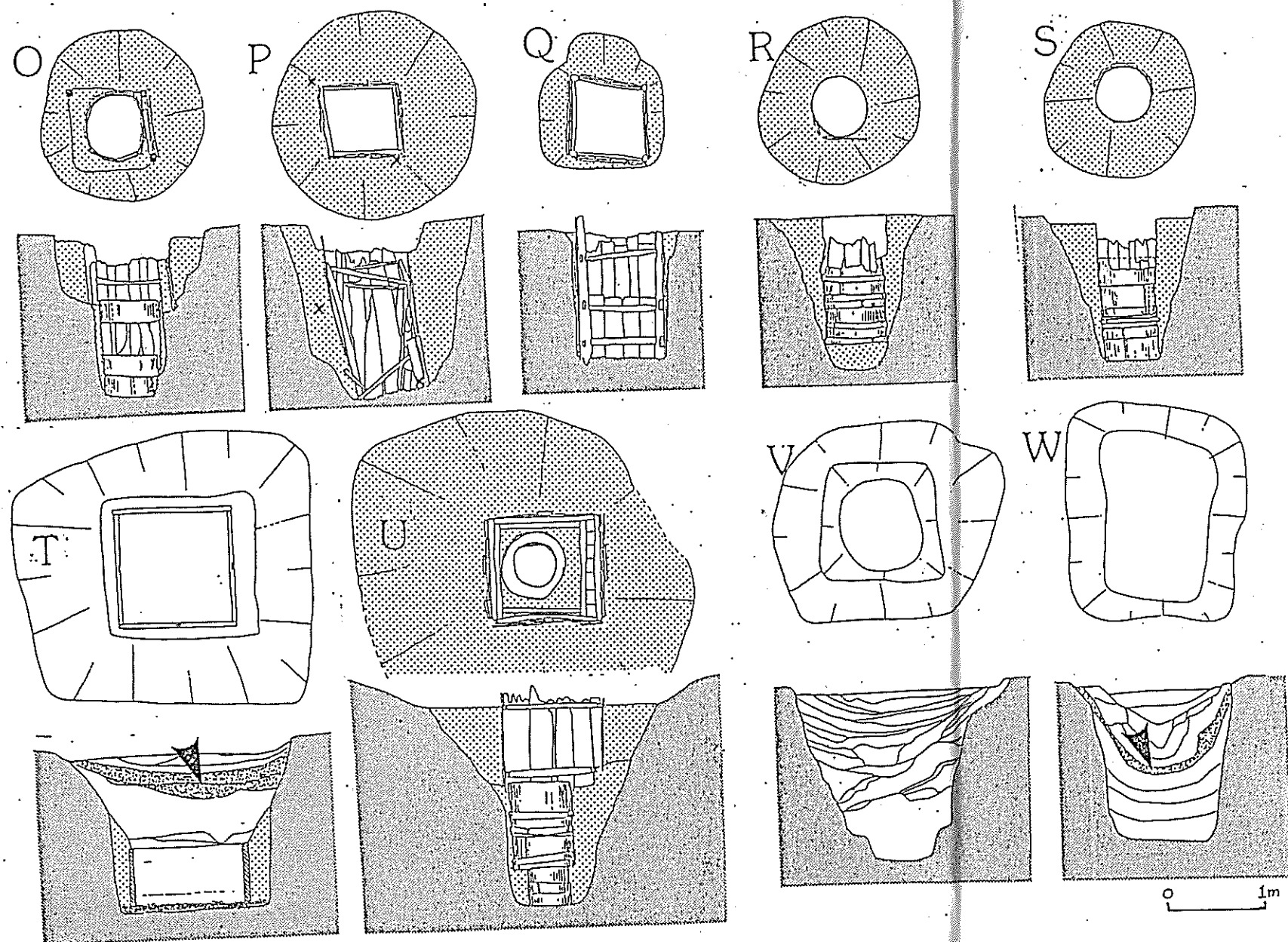
第2図 左京三条二坊と調査位置



第3図 これまでの調査のすべての遺構配置図



第4図 建物配置の移り変わり



第5図 B・C区の井戸跡

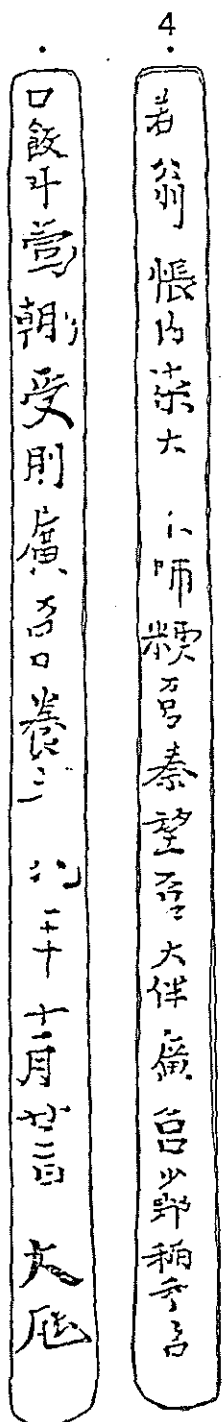
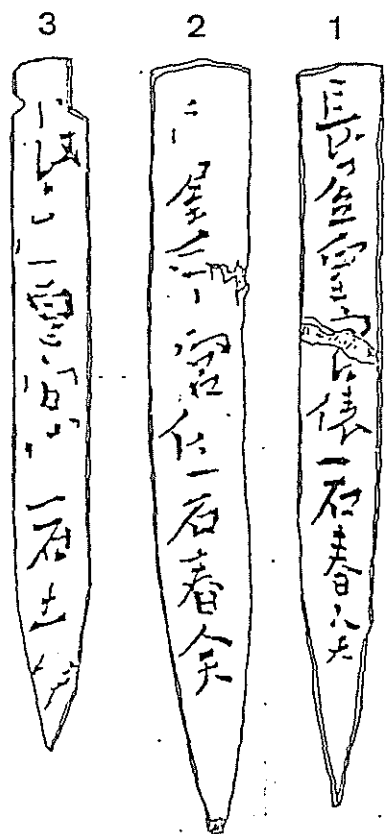


(約 2分の1)



第6図 井戸T出土黒土器の実例図

- 1 (表) 長屋皇^{〔宮カ〕}一石春人夫 175×25×6
(裏) 羽咋直嶋
- 2 (表) ^{〔長カ皇カ〕}一石春人夫 182×21×5
(裏) 羽咋直嶋
- 3 (表) 長^{〔屋カ〕}一石^{〔宮カ〕} 160×18×6
(裏) 羽咋直嶋
- 4 (表) ^{〔苦カ〕}〔漆カ〕^{〔若カ〕} 351×23×4
(裏) 口飯斗^{〔夕〕}老朝受則廣万呂養老元年十二月廿二日 大延
- 5 (表) 侍少子 子老 宇甘 酒達 国嶋 久比 石見 石末呂 207×21×5
(裏) 十四口飯二斗八升 受石見 六廿月七日
- 6 (表) 犬六頭杭飯六升瘡男 165×23×5
(裏) 六月一日麻呂
- 7 伊豆国賀茂郡賀茂郷川合里伊福部別調荒堅魚十一斤十口 (298)×28×2
- 8 犬上郡凡原郷川背舍人 (117) 19 3 033
乙米五斗
- 9 浦生^{〔耶〕}郷長使^{〔耶〕} 146 18 3 033
一俵
- 10 此取人者逃女成 140 19 3 011
- 11 此取人者御六世 116 18 1 011
- 12 此取人者盗人妻成 116 17 3 011



第7図 井戸跡W出土の木簡